

3

Once upon a time, there lived a Mother goat and seven little children in a house within a forest.

“Hey kids, I need to go shopping so you must make sure to beware of the wolf.”

“Okay, we understand. We are not going to open the door, even if someone visits us.”

“See you later mum!”

The mother left the house.



5

Meanwhile, the wolf had been observing the children from the shadows behind trees.

“Hehe, the mother has left, so there are 7 kids in the house. I am going to eat them all!”

The wolf banged on their door.

“I’m home, it’s your mother. Open the door.”

He said it softly mimicking their mother’s voice.



とある、もりの いっけんやに、おかあさんやぎと、
しちひきの こやぎたちが すんでいました。

「おまえたち。おかあさんは これから
かいものに でかけてきますから、
おおかみには、きをつけるんですよ」

「うん、わかった。だれが きても、
ドアを あげちゃ いけないんだよね」

「おかあさん、いってらっしゃーい！」

おかあさんやぎは でかけていきました。



さて そのようすを、おおかみは
きの かげに かくれて みていました。

「しめしめ、これで いま、
あのいえに いるのは、こやぎが しちひきだけ。
みんな おれが くってやる！」

おおかみは、やぎたちの いえの
ドアを たたきました。

「ただいま。おかあさんですよ。ドアを あけなさい」

おおかみは、おかあさんやぎの こえを まねて
いいました。

